

講義名称	日本思想史	担当教員名	高山 有紀
科目群	人文学 (HUM)		
科目区分等	歴史 CA7 DI5	単 位	2
対象学年次	1年・秋学期	ナンバリング	HUM132

授業のキーワード	神仏習合、前近代の庶民信仰、近代人の生活文化
授業の概要	信仰や社会思想をテーマに、日本文化の形成に影響力をもったとみられるさまざまな思想を扱います。「日本史概論」とは違い、思想史を重点的に学ぶ授業です。
期待される学習成果 (目標)	1、日本人の生活文化に関わりの深い思想について基礎知識を得ることができます。 2、多様なものの見方が存在したことを知り、四年制大学への編入をも見据え視野を広げることができます。

#### 授業展開

回	テーマ	内 容
1	はじめに	授業の進め方について説明します。
2	日本人の信仰①	「神仏習合」の考え方の特質について学びます。
3	日本人の信仰②	浄土思想と「死生観」について学びます。
4	日本人の信仰③	中世の人々の「遁世」や「夢」に対する考え方について学びます。
5	日本人の信仰④	中世の人々による「起請文」作成の意味について学びます。
6	日本人の信仰⑤	徳川家康の神格化と江戸幕府の宗教性について学びます。
7	日本人の信仰⑥	江戸時代の人々の妖怪に対する考え方について学びます。
8	日本人の信仰⑦	江戸幕府の宗教政策を背景に、人々の娯楽と信仰の関係について学びます。
9	中間のまとめ	前講までの学習を総括します。
10	近代化と思想①	神仏分離をはじめとする明治政府の宗教政策とその影響について学びます。
11	近代化と思想②	明治政府による休日の制度化とその影響について学びます。
12	近代化と思想③	近代歴史研究および歴史教育のはじまりについて学びます。
13	近代化と思想④	大正時代の母性保護論争や女子教育振興の影響について学びます。
14	近代化と思想⑤	大正時代から昭和初期にかけての人々の消費生活と近代的大衆文化の形成について学びます。
15	まとめ	全体を総括し、改めて思想史を学ぶ意義について考えます。

定期試験	ペーパー試験を実施します。講義中取り上げたキーワードに関する解説を求めます。
授業時間外学習	事前にお知らせする用語を下調べして授業にのぞみましょう。配布資料を事前に読むよう指示する場合があります(60分)。授業後はノートを見返し復習します(60分)。疑問があればすぐに質問しましょう。
評価方法	授業への取り組み(30パーセント)、試験(70パーセント)
使用する教科書(必ず購入してください)	教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布します。
参考文献	佐藤弘夫ほか編『概説日本思想史』(ミネルヴァ書房) 島蘭進ほか編『勸進・参詣・祝祭』(シリーズ日本人と宗教 近世から近代へ4)春秋社